

順位	氏名（議席）	発言の要旨
6	植松 光徳（８）	１．富士市で安心して出産できる環境整備について 近年、全国的に少子化が進行しており、昨年１年間に生まれた日本人の子供の数は68万6000人余りと、前年より４万1000人余り減少し、統計を取り始めて以降、初めて70万人を下回ったことが厚生労働省の調査で分かりました。本市においても、出生数の減少は看過できない状況であり、令和６年の富士市の出生数は1263人とこれまでで最も少なかったことが報告されています。また、産科医療は、市民の生命と健康を守る上で不可欠な医療であり、少子化対策、ひいては地域社会の持続可能性を考える上で極めて重要な分野ですが、全国的に産科医の偏在や医療機関の集約化が進み、分娩施設の減少や遠距離搬送といった課題が顕在化しています。このような状況下で、子供を産み育てることを選択した市民が安心して出産に臨める環境を整備することは本市の喫緊の課題であり、将来にわたって持続可能な産科医療体制を構築できるのか、深く懸念するところであります。 そこで、本市における産科医療の現状と課題、そして今後の展望について、以下の点について質問します。 (１) 本市における分娩件数の推移や、市民の分娩場所の選択肢について、現状をどのように認識しているか伺います。 (２) 産科医や助産師の人材確保は、全国的に喫緊の課題となっています。安定的な人材確保に向けて、本市として現状をどのように分析し、どのような取組を検討しているか伺います。 (３) 近隣市町との連携を含め、緊急時における周産期医療体制の構築について、特に高リスク妊婦や緊急搬送が必要なケースへの対応など、具体的な連携状況と課題を伺います。 (４) 経済的な負担が出産をためらう一因となっているとの声も聞かれます。出産・子育て世代への経済的支援、特に産科医療費に対する支援について、本市としてどのような施策を講じているか伺います。 (５) 市民が安心して出産できる環境を整備するためには、医療面だけでなく、産前・産後のきめ細やかなサポートも重要です。本市における産前・産後ケア事業の現状と、今後さらに力を入れていきたいと考えている取組について伺います。